

編集 発行：社会福祉法人 啓明会 苓山寮・第二苓山寮
〒863-0006 熊本県天草市本町下河内680
TEL 0969-22-5339・0969-22-1766 FAX 0969-22-5090
E-mail reizanryou@miracle.ocn.ne.jp・reizan2@muse.ocn.ne.jp
社会福祉法人啓明会ホームページURL <http://keimeikai.amakusa-web.jp/>
施設の旬の話題を「**レイザンTOP.IX**」にて更新中です。



『お金の話』

施設長 飽田 一夫

六月は値上げの月でした。多くの食品、生活用品が値上げされ電気料金も上がり家計を圧迫しています。施設の台所も似たような事情です。施設の収入は福祉サービスに応じて国から支給される介護給付費(代理受領)と利用者さんから直接いただく利用者負担金の二種類です。利用者負担金は食費、水道光熱費、預かり金管理料の合計です。

介護給付費は三年に一度見直しがあります。今年がその年でした。そのたびに少しずつ給付される額が変わりますし、国の施策の方向性が見直しに表れています。方向性に沿ったシステムを作っているか、記録を残しているか、それに沿った支援を実行しているか等が問われ、未実施の場合は減算となります。

私達社会福祉法人の目的がお金儲けではないことは当たり前ですが、組織を維持し円滑な運営を行うためには健全な財政基盤が必要です。つまり収入と支出のバランスがとれてなくてはいけないということです。しかし最近の物価上昇はさすがに響いています。また支出の中で最も大きいのは人件費ですが、人材不足が

当たり前の世の中、理想論だけでは人は集まりません。それに、職員が腹を据えてここで仕事をしてキャリアを積んでくれるためには、福利厚生は大切だと考えています。苓山寮、第二苓山寮では特殊業務手当十二%を維持していますし、期末一時金は支援員だけでなく全職員に同額を支払っています。そのためには施設からの持ち出しも必要です。しかし、これは全職員と一緒に利用者を支援するという施設の大前提を示すためですから、止めるつもりはありません。お陰で人件費率は毎年伸びていく一方です。従って、職員には小さいところまで節約するようお願いしています。プリントは裏紙を使う。十枚以上はコピーではなく印刷機を使う。壊れたものでも修理できるものは徹底的に修理する。新規に物を買うときは費用対効果を考える・・・など口うるさいほどに言っています。

経済的な裏事情をここに書くのは初めてです。施設の収入は煎じ詰めれば全て税金です。いただいたお金を社会福祉に生かす。これはとても難しく哲学的な問題でもあります。さて苓山寮・第二苓山寮ではそれができているだろうか。自問自答の日々です。

サービスの現場より



『リスクマネジメントの
取り組み』
第二荅山寮支援課長 瀬崎 哲也

第二荅山寮において、令和六年四月現在利用者の方の平均年齢は六〇歳を超えています。また、高齢化、重度化の他、多種多様な障害をお持ちの方にご利用頂いていることもあり、ここ数年間、大小様々な事故が後を絶たない状況が続いていました。そこで、全職員で対策を協議、試行錯誤する中、KYTに着目しました。そこで始めたのは、前年度の事故、ヒヤリハット報告を再検証し、転倒、服薬に関する高リスク者を洗い出し、時期や時間帯を含めたその傾向を一つ一つ確認しました。その後、現在の状況と照らし合わせ、改善策を見直し、全員で周知、統一した支援を実施しました。その結果、令和四年度二七件あった事故件数が、令和五年度は十七件と減少、全職員でその結果を喜び、達成感と自信へと繋げる事ができました。

令和六年度も検討会議毎に、令和五年度に発生した事故とヒヤリハットの見直しをしています。リスクをいち早く気付き、対応する事で事故は確実に減少します。今後、も日常の中に潜んでいる小さい事故の芽を早い段階で摘み取り、事故を一つでも減らす取り組みに精進していく所存です。



『担当利用者さんへの
取り組み』
第二荅山寮支援員 鮎田華代子

私が担当させて頂いているUさんは、職員の名前をよく覚えておられ、声を掛けては挨拶やその日の勤務を尋ねておられます。また、自分の意思をしっかり持ち、それを言葉や文字にして伝える事が出来ます。今年度の個別支援は、先ほどの強みを活かして「自分で外出計画を立てる」事を目標に掲げました。早速、何処に行きたいか尋ねたところ「墓参りがしたいです。」との要望がありました。Uさんお楽しみプランというノートを作成し、相談しながら、日程や時間、用意する物等を書きました。当日は外食後に墓参りに行きました。記憶力の良いUさんは、何年も前に行った墓の場所をよく覚えておられ、案内をして下さいました。墓参りを済ませたUさんは安心された様子でした。後日、行った所や楽しかった事をノートに書き、次のプランについても話が進み、外出を楽しみにして下さっていることがわかりました。今後、Uさんの強みを活かして支援して行くことが大切だと考えています。自分の意思で行きたい所へ行くことが自信に繋がります。充実した日々が過ごせる様支援していきます。



『担当利用者さんへの取り組み』
荅山寮支援員 中村 有希

Kさんは塗り絵や字を書く事が好きで活動や余暇時間等に取り組んでもらっています。昨年度は楽しめる場を広げていく事を目標に色々な事に挑戦しました。平仮名の練習を声に出しながら一緒に練習をしたり、花の塗り絵等の作品を行事の際に展示する事も出来ました。又、皆さんと一緒に手に絵の具を付け画用紙に手形を取る作業も楽しんで参加されました。行事や壁面の題字書きを提案させてもらい「〇〇に提示する文字を書いてもらいたいので練習をお願いします。」とお願いと「はい」と元気の良い返事が聞かれ居室で何回も練習するなど熱心に取り組まれている姿も見られました。しかし、いざ書いて頂くと遠慮されているのか小さく書かれる事が多かった為、本番用の大きな画用紙に数回練習をしました。本番では、自信がついた様子で大きな字を書く事が出来ました。

年間で東向寺保育園交流会、創立記念日の壁面、ひな祭り会等の題材を書く事が出来、仕上がった物を見てもらい上手に出来た事を称賛すると「出来たー」と手を広げて喜ばれていて楽しめる場を沢山持った一年となりました。今年度は「お母さんに手紙を書きたい」と要望がありました。引き続き行事の題字書きは実施していく事で更に楽しさや自信をつけられるようにサポートしていきます。その中で大好きなお母さんへの手紙を書く事で日常生活の中に大きな幸せを感じられる様、今以上の達成感を感じる事が出来るような支援をしていきたいと思います。

事例研究を通して



苔山寮支援員 松本 健史

私はUさんが入所された令和三年度から令和五年度まで担当させて頂きました。その中で令和四年度から二年間、Uさんを対象に事例研究を行いました。

Uさんは入所された時から、他害行為や不安定な行動が何度も見られていました。一年目の事例研究では、そのような行動が減少し落ち着いた生活を送って頂ける事を目標として、取り組みを行いました。取り組みの中で、不安定な行動が見られた時には個別で屋外を歩いてもらうと落ち着いて頂ける事が分かり、Uさんが落ち着いて過ごす為のヒントを得る為、全職員へアンケートを収集しました。その後から、職員のUさんへの関わり方の意識が変わったように思われ、多くの職員が声を掛けながらグータッチでスキンシップを図る等、積極的に関わるようになり、職員とUさんの関わりが増えた事で、以前よりも他害行為や不安定な行動も減少し、次第に落ち着いて過ごす事が出来る日が多くなりました。

二年目の事例研究では、日課に沿った生活を目標とし、日中活動へ参加して頂く事が出来るよう取り組みました。その中で、雑巾掛けが出来た事が分かり、他利用者も交えて「苔山FC隊(床拭き隊)」を結成し、掃除時間には苔山FC隊のメンバーで、雑巾掛けを行って頂きました。Uさんは雑巾掛けには殆ど拒否される事なく取り組み、笑顔が見られる事もありました。現在でも雑巾掛けは取り組み事が出来ておられます。毎日行われる掃除に参加する事で、日課に沿った生活へ少しでも近付いて頂く事が出来るようになりました。二年間の事例研究を通して、Uさんに対する職員の関わり方や意識が変わり、全職員でチーム支援を行った事で、Uさんが落ち着いた生活、日課に沿った生活を以前よりも送る事が出来るようになったと思われ、やはり多くの関わりが重要だと思われました。しかし、まだ他者への他害行為や日中活動への参加に拒否も見られていきます。今後も関わりを多く持ち、Uさんに合った良い支援方法を模索しながら、全職員で支援をしていきたいと思えます。



第二苔山寮支援員 鶴田 浩隆

昨年度担当して頂いたOさんに「充実した生活を送って頂くために」という内容で事例研究に取り組みさせて頂きました。

Oさんは高齢であり、緑内障を患われており殆ど目が見えられない為、車椅子に座ったまま日中を過ごしておられます。Oさんの課題として、「目が不自由なため、活動に対するやる気がなくなっている事」、「体を動かさない為、特に足の関節が動きにくくなっている事」が挙げられました。そのためか、以前は頻繁に見られていた発語や笑顔が令和五年度には殆ど見られなくなっており、事例研究の目標を「様々な刺激を感じてもらい、充実した生活を送ってもらおう。」として事例研究を進めて行きました。

実施内容の一例として、動きにくい下肢に刺激を与えるため、病院の理学療法士の方に教えて頂いたマッサージを行いました。実施中はOさんも気持ちよさそうに笑顔が見られました。途中、病気のため、マッサージを中断するなどのトラブルもありましたが、無事に一年間の事例研究を終える事が出来ました。その中でも特にご本人が喜ばれた事として、苔山寮の特浴施設での入浴が挙げられます。身体を洗い終え浴槽に浸かると、初めはびっくりされて手に力を入れておられました。湯船につかられており、非常に気に入られた様子でした。Oさんは現在、苔山寮へ移られていきます。食堂でお会いした際に挨拶をすると、頷いて返事をして下さいます。事例研究の内容は苔山寮の職員へも共有してありますが、今後もOさんの活動が充実し、元気で過ごして頂けるよう協力していく所存です。

東向寺保育園交流会

6月3日

東向寺保育園との交流会が苓山寮、第二苓山寮、天草学園、第二天草学園と合同で開催されました。十四名の園児さんが

3グループに分かれ、曲に合わせてダンスを披露されました。会場では自然と手拍子が鳴り響き一体となってとても盛り上がりました。各施設からも歌やダンスを披露し利用者の皆さんの表情も生き活きとされていました。全体で手遊びをする時は園児さんが利用者の方々の中に入ってにらめっこをされ、ほのぼのとした雰囲気楽しく交流することが出来ました。



苓山寮個別外出

個別支援計画や利用者自治会での要望に応じて、積極的に個別外出を取り組んでいます。個別外出では、主に外食や買い物、ボウリング、足湯等それぞれの希望に応じた内容を行いました。いつもと違う環境に戸惑う方、積極的になられる方等、施設外で見せて下さる表情や言動に、私達支援者側も新たな気づきや発見があります。又、担当との信頼関係の構築も図れるように感じております。

今後も利用者さんの声を聴き、希望に応じた内容を取り組んで行きたいと思っています。



第二苓山寮

ゴールデンウィーク 5月3日

5月の気持ち良い天候の中「利用者さんとみんな
で楽しめるレクリエーション」をコンセプトに
バーベキューを実施しました。利用者さんが主体となってお肉を焼いてもらい「もういいかな？」
「〇〇さん焼けたよ」など大賑わいでした。自分ばかりではなく他者を思いやる様子にとっても嬉
しく思うと共に、皆さんお腹一杯になり「美味しかった!!」と大変喜ばれていました。



余暇支援

★グループホーム事業所

グループホームでは、毎月行っている自治会で出た
皆さんの要望から、外出先等を決めて皆で計画を立て
実施しています。四月にはボウリングセンターに行き、
五月には焼肉を食べた後カラオケに行き、それぞれ好
きな歌を熱唱して楽しみました。まだまだ、行きたい
場所ややってみたいこと等の要望は尽きません。少し
ずつ実行できるようにして楽しく生活をして頂きたい
と思います。

第39回天草宝島国際トライアスロン大会 5月26日

ここ天草は、スイム
1.5km、バイク40km、
ラン10kmの「オリンピ
ック公式距離」

で開催された”トライアスロン日本発祥の地”として知られています。その伝統
ある大会に鉄人たちに混じって第二苓山寮支援主任の田中正行さんが出場されましたので手作り
の応援旗を持って皆で応援に行ってきました。

田中選手
応援



【新利用者紹介】はじめて



ながはま りおん
永濱 理音さん
第二 荅山寮



おにづか とよし
鬼塚 豊志さん
荅山寮

【新職員紹介】



よくしくおねがいします
奥村 未来さん（荅山寮看護師）
約七年間病院で勤務していました。その時の経験を活かして利用者の方々と全力でサポートしていきたいと思えます。



おつか まいこ
大塚 舞子さん（第二荅山寮支援員）
初めての支援員で分からないことが沢山あって、皆さんに迷惑を掛けることがあると思いますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願致します。

【退所利用者】

安谷 紀子さん（荅山寮） 五四年間、荅山寮で過ごされましたが、五月二七日をもって退所されました。今後も安谷さんらしく明るく笑顔で過ごして下さい。

【家族会総会】 四月二七日

荅山寮二三家族三二名、第二荅山寮四家族四名御参加頂き、施設の概要や経営方針、作業収益、医務、防災の説明と新人紹介、新入所者のご家族の紹介を行わせて頂きました。



午後からは担当職員より御家族へ個別支援の説明や近況報告を行い、顔を合わせて話す事が出来てとても充実した一日となりました。今後も利用者さんの生活を支えていく上で御家族のご協力は不可欠です。ご協力お願いいたします。

日常生活の風景



岡本 幸代さん

毎朝必ず「おはよう」と笑顔で挨拶していただきます。歩行時は好きなものの話しをしながら楽しく歩かれ、室内活動時は大好きな塗り絵に一生懸命取り組まれています。現在、様々な作品作りを頑張っておられ、完成した作品を展示したりご自分の居室に飾り、沢山の皆さんに見ていただくことをとても喜ばれています。今後も幸代さんが元気に楽しく生活して頂けるよう支援していきたいと思えます。



久保 涼子さん

涼子さんは人と接することが大好きな方ですが、少しコミュニケーションが苦手で、周囲の気を引こうと大きな声で泣いてみたり、人の腕を引っ張ってしまわれることがあります。それを見た他の利用者さんや職員の反応を見て、ここに写っているような満面の笑顔で笑われます。これからもこの笑顔をたくさん見れるような支援を心掛け、一緒に安心して楽しい生活を送っていきましょう。

行事予定

六月

- 二十日 家族交流会
- 二五日 第二回管内研修
- 二六日 亀川小学校福祉説明会

七月

- 二日 えがおの会
- 二二日 チャレンジto 0
- 二三日 第三回管内研修
- 二六日 不審者対応訓練

お知らせ

八月二四、二五日の二日間「こころす」にて、天草地区文化展が開催されます。荅山寮・第二荅山寮からも多数の作品を展示致しますのでぜひご来場ください。

編集後記

新年度になり早いもので三ヶ月が経とうとしています。利用者の皆さんも新たな個別支援計画に沿って職員と一緒に日々目標達成に向けて頑張っているところです。

私自身も健康に気を遣う年齢となった事から、健康管理について自分なりの目標を立ててみました。運動不足を認識しながらもきつい運動は正直したくない、気楽に出来るものはないかとスマホで検索し「これなら続けられるかな」とストレッチに取り組んでいます。「毎日必ずする」ではなく『出来る時に出来る事をしよう』とゆる〜くやっています。効果？あつてか最近肩こりや腰痛が軽減したような・・・やはり健康が一番。毎日元気に笑顔で利用者の皆さんと過ごしていきたいと思えます。

